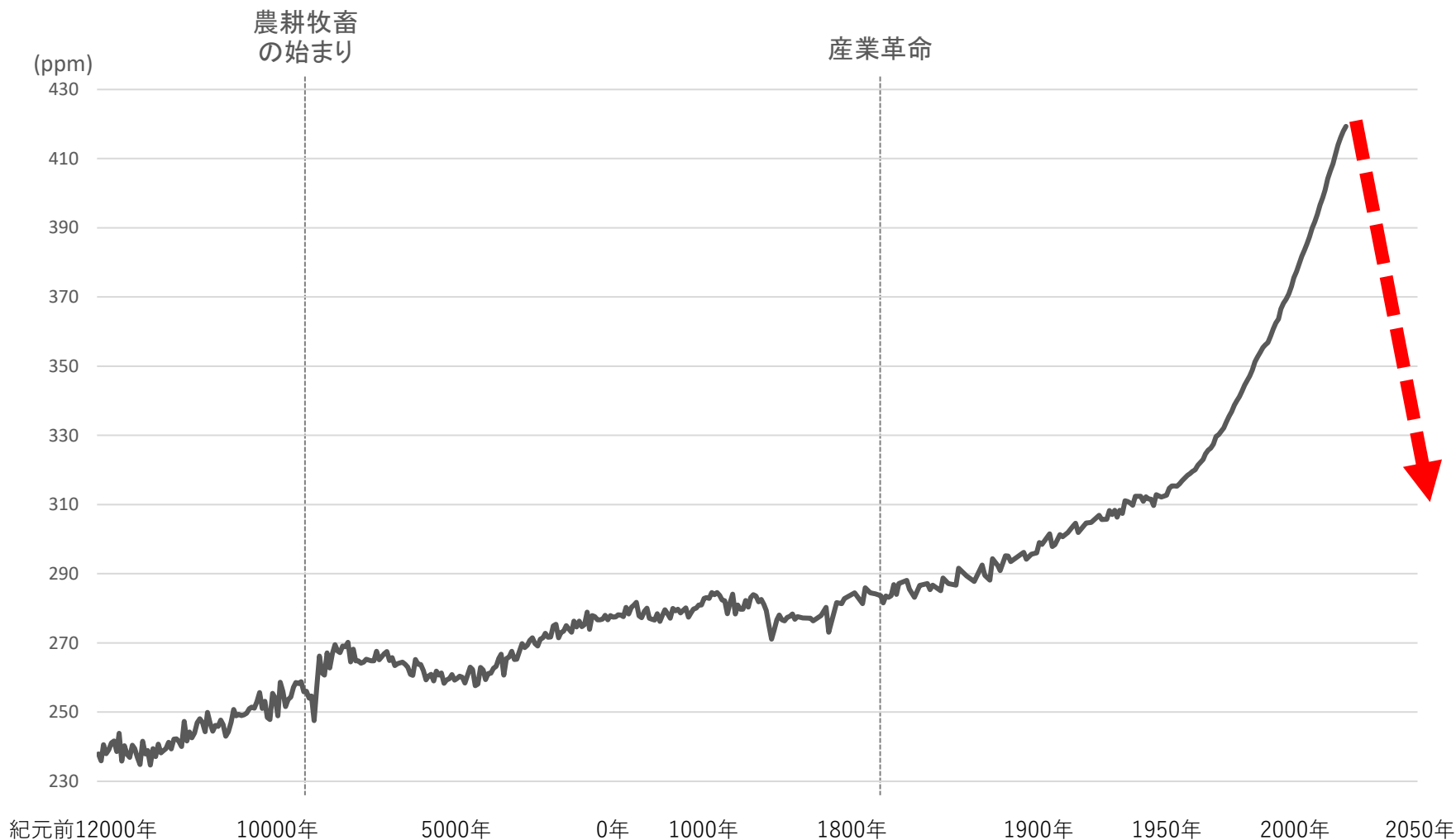


民間GXを加速するための 産業変革と市場創造

大橋 弘
(東京大学)

過去の延長線上にはない1.5°C目標

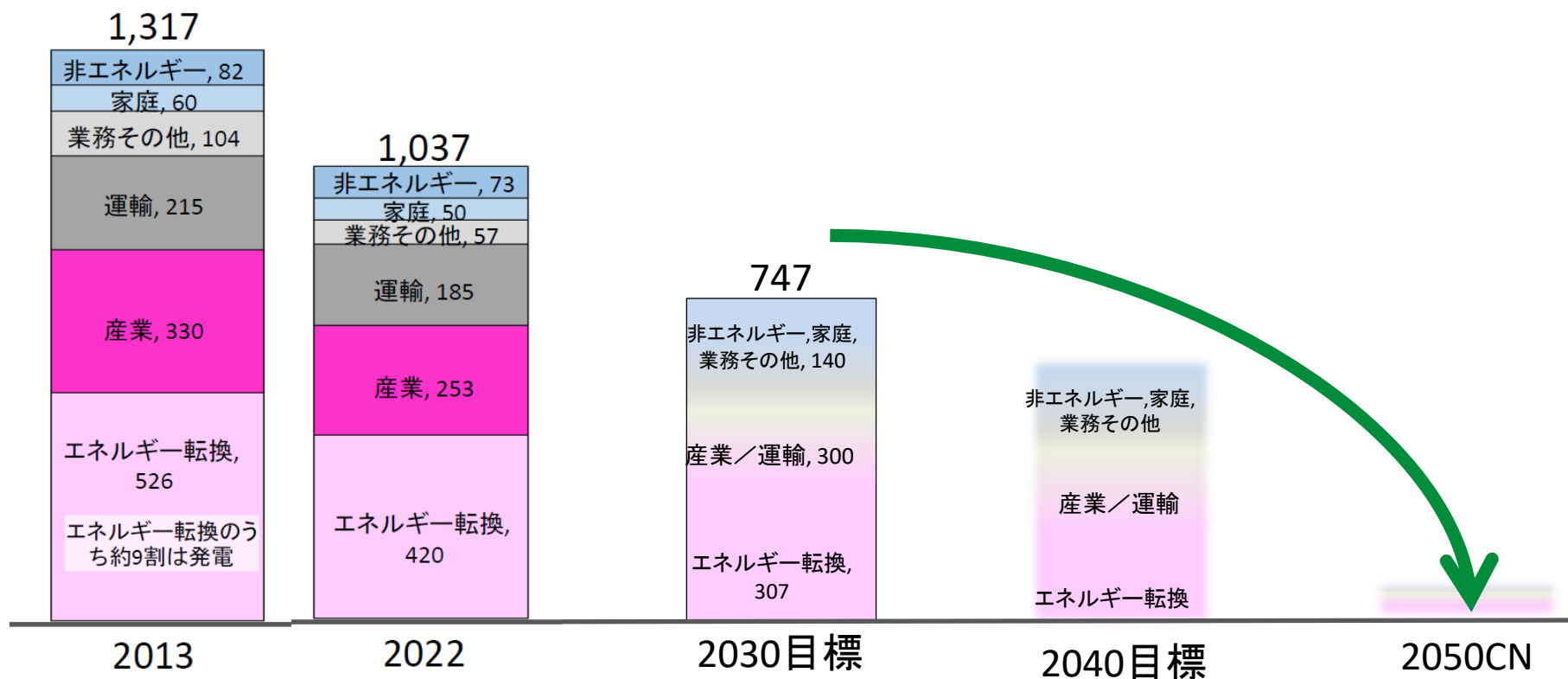
大気中のCO₂の濃度



背景と方向性

- 世界に求められる脱炭素の取り組みは、過去に類を見ないほど野心的。
- 他方で、各国の取り組みはまちまち。ピークアウトの時期を戦略的に遅らせているように見える国々もあるなか、国益を譲らないしたたかさが必須
- 脱炭素の取り組みには、採算性が不透明。この取り組みを業界のみに頼ろうとすれば、多排出業種等の国内立地の空洞化を加速しかねないだけでなく、世界全体での脱炭素の取り組みにも逆行
- わが国産業のGXを、国・地方がしっかり政策として支えることで、国内のサプライチェーン・雇用を基盤としたわが国産業の更なるグローバル展開と日本の経済成長の促進につなげる必要がある

GX技術が開発・実装されるにつれ、 加速度的に炭素生産性が向上する



国内CO2排出実績(電気・熱配分前; 100万t)

産業GXを支える2軸の政策

➤ 公正なグローバル規律

- 世界全体の脱炭素を進めるためのグローバルなルール・規律づくり。暗示的な取り組みを**見える化**。脱炭素に貢献する国が**公正に評価**される仕組づくり
- そうした仕組みができるまでのグレース(猶予)期間の検討

➤ 産業GXをわが国の持続的成長につなぐ視点 (次頁以降)

産業GXを持続的な成長につなぐ視点

- 企業の取り組みである以上、大規模投資が必要となる産業GXには、**一定の事業性**の**見通し**は必須であり、**将来的な事業拡大の展望**が描けることが必要
 - 投資回収に一定の見通しが立てば、投資規模も価格競争力も生れる
- そこで、産業GXでは技術開発に劣らず、**市場創出**も重要
 - 本来、資本主義では、企業は市場が欲するものを提供する
 - しかし、GXでは脱炭素への市場を意識して作り出し、需要家自らのGXへの行動へつなげる必要がある。そこには政策の役割がきわめて大きい
- 具体的な取り組み例として
 - **炭素に対する価格**を適正化することで、GXへの需要を高める
 - 脱炭素製品(e.g. グリーンスチール)を、非脱炭素製品(普通スチール)との価格だけの競争に晒さぬよう、(GHGプロトコルなど国際)**規準**に位置付け、推進する
 - 炭素のトラッキングや見える化など、サプライチェーンのDX化促進にもつながる
 - **公共調達**に脱炭素製品の購入を要件づける。GX先導企業(GXリーグ参加企業)に対して**脱炭素購買**を推奨する
 - 新設のみならず、既設に対する脱炭素化の遡及適用を試みる 等
- GXでの先導的な取り組みを**国益につなげるための官民戦略**

脱炭素化と安定供給を両立するエネルギーシステム

安価な脱炭素電源が大量に求められる局面

- データセンター新設等での電力需要増
- 再エネを含む脱炭素電源のコストの高止まり、供給力不足の継続等により、**全需要家に波及し得る安定供給リスクの高まり**

⇒ 脱炭素と安定供給を両立するエネルギーシステムが必要。そのために、**コスト負担のあり方の検討やその低減にもつながる市場設計**

脱炭素電源やネットワークの投資は長期にわたり、また現状は相当のコストもかかる。長期的な目線を持ちながら、**移行に向けた過渡的な取り組みの重要性の明確化**も必要

重工業等では：

- エチレンやプロピレンなどを原料とする高機能材料でのわが国のポジションを維持することが、**半導体や高度医療などのグローバル安保**でも重要
 - なお、中国の新增設が著しく、**PVパネルと同様の供給過多、値崩れが心配**
- 製油所等の統廃合などで用地余剰が生まれるなか、地域コンビナートで**協調した脱炭素化を政策的に加速化**させ、電源立地を進める必要
- 電力システム・制度の内生的なロジックに縛られ過ぎず、**各産業の市場の出口と整合的な電力供給のあり方**を大胆に描けないか

エチレン生産能力

